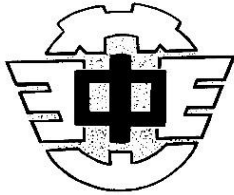


令和7年度

学校だより



TO YO SA TO
とよさと

豊里学園

つくば市立豊里中学校

第34号

令和8年3月11日 発

第66回 卒業式 挙行

3月10日に本校体育館で、令和7年度第66回卒業式が、多くの来賓の皆様、保護者の皆様のご参列のもと、挙行することができました。

卒業証書を一人ひとりが真剣なまなざしで厳粛に授与されていく姿は、中学校3年間の大きな成長のひとつを感じました。豊里中学校で学んだ多くのことを、次のステージでも十二分に発揮してくれることでしょう。

保護者の皆様には、3年間本校教育活動に対し、深いご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。

ご卒業おめでとうございます。卒業生みなさんの活躍を期待しています。



式辞(一部抜粋)

146名の卒業生の皆さん。ご卒業おめでとうございます。さて、これまで卒業生の皆さんには「挑戦すること」「日々の学びの大切さ」「挨拶をはじめとしたコミュニケーション力の向上」について、年度当初からお話ししてきました。新たな門出に際し、これから大切にしていきたいことをお話ししたいと思います。

先日、冬季のオリンピックが開催され、史上最多24個のメダルを獲得し、26人のメダリストが生まれるなど、多くの選手が活躍したことを覚えている方もいると思います。メダリストになった選手だけでなく、代表選手として出場した選手たちに共通していることは何かを調べてみました。

今回のオリンピックに出場した選手は、全部で120名(監督・コーチ含むと281名)いたのですが、どの選手も順調に世界の舞台に出場してきたわけではないようです。

ある選手は、なかなか記録が伸びずに何度も失敗や挫折を繰り返していたり、またある選手は、ケガをしてしまい、思うように練習ができずに苦しんだり、選手一人ひとりがそれぞれの難題に向き合い、乗り越えて、オリンピックの舞台に立っていました。大会当日の華やかな舞台にばかり目を向けがちですが、選手たちのそれまでの取り組みや姿にも目を向けてほしいと思います。

どのようにして、彼らは大きな課題を解決し、本番でも自分の力を発揮できたのでしょうか。それは、競技終了後の選手たちのインタビューなどからわかることがあります。すべての選手に共通していることは、次の点があげられます。

- 一 自分自身をより成長させるために、甘えずに自分自身としっかり向き合いながら、練習を積み重ねてきたこと
- 二 大きな困難や失敗に出会ってしまっても、けっして下を向かず、困難なことや失敗でさえも前向き(ポジティブ)に捉え、前を向いて踏ん張ってきたこと
- 三 自分を支えてくれた方々への感謝の気持ちを、もち続けていること。

この3点は、けっして彼らだけができる特別なことではなく、皆さんもこれからの成長していく過程の中で、実践していけることではないでしょうか。ぜひこの三つを意識して次のステージで取り組んでみてほしいと思います。

そして、生成AIなどの発達による高度デジタル社会がさらに進むこれからの世界・未来では、自分自身の「ものさし」をしっかりと持ってほしいと思います。「ものさし」とは、自分自身の考え方や行動の基準となるものであり、何を大切に、何に向かって頑張るのかを示す人生の指標のようなものです。例えば、課題に直面してしまったときや変化が大きな時は、動揺してしまい、どうしても自分自身が揺らいでしまうこともあります。その際、行動を起こす前に、自分自身の「ものさし」を取り出して、立ち止まって考えるようにしてみてください。

しかしながら、皆さんの「ものさし」は、まだまだ成長の過程にあります。自分自身の成長の限界点をつくらずに、これからも多くの体験を通して、自分自身の「ものさし」を鍛えていってください。大きく、大きく成長していくみなさんの姿を楽しみにしています。

最後になりますが、保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

これまで三カ年にわたり、本校教育活動に多くのご理解とご支援・ご協力をいただきましたこと、あらためて心より御礼申し上げます。

本日をもって、生徒たちは義務教育を修了することになりますが、まだまだ成長の過程にあります。これからの厳しい社会を逞しく生きていくために、今後もしっかり見守っていただきたいと思います。

私たち豊里中学校の全職員も卒業生の皆さんのご活躍を心より応援しております。

つくば市立豊里中学校長 岡野 浩則